



H31.4.8 現在	学級数	生徒数
1 学年	8	302
2 学年	8	298
3 学年	7	274
特別支援	3	17
合 計	26	891

人を温める言葉 > 人を傷つける言葉



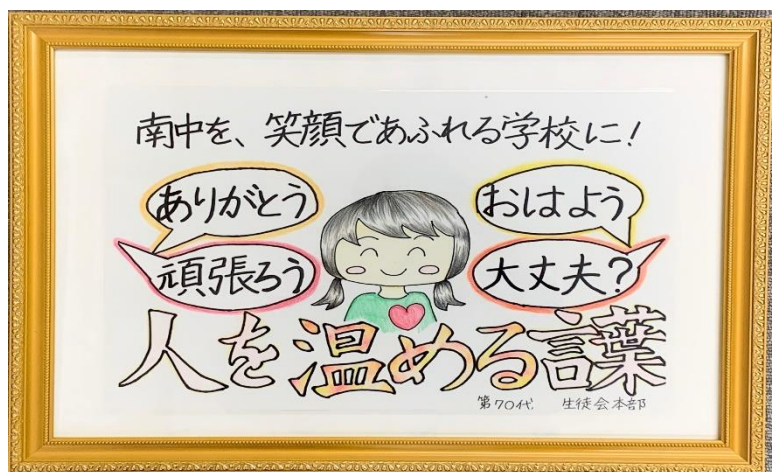
校長 窪田 和彦

31年間の「平成」の時代から、「令和」という新しい時代を迎えました。

この令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているとのことです。言葉には、様々な思いが込められています。私たちが欠かすことのできない言葉、物事を思うとき、言葉で考えます。「言葉には、魂が宿る」とも言われています。

皆さんは「ことだま」という言葉を知っていますか。漢字では「言霊」「言魂」「事霊」と書きます。日本では昔から、良い言葉を発すると良いことが起こり、悪い言葉を発すると凶事が起こるという考え方がありました。言葉にはとても大きな力があり、人を元気にしたり、逆に傷つけたりすることがあります。

自分自身、イライラしたり、不安や落ち込むことがあると思います。自分の思い通りにならない時、物事が進まない時、「何でこうなるの」という言葉で考えてしまうのではないのでしょうか。それよりも、「この状態でも、私には～ができる」という言葉で考えれば、イライラから脱出しやすくなるのではないのでしょうか。また、同じように、ネガティブな言葉で考えている時も、否定的になったり、消極的になったりしてしまいます。明るく前向きになりたいのであれば、ポジティブな言葉を使って考えてみましょう。自分に元気がない時や落ち込みそうになった時は、自分自身で自分を励ます言葉をつぶやいてみてください。



自分が否定的や消極的・攻撃的など、負の感情をもって発せられた言葉は、周りの人に、不快、不安、驚きや怒りなどの感情をもたらししてしまいます。その言葉を受けた人も、負の感情を持った言葉で返してしまいがちです。

逆に、「ありがとう」「大丈夫」「頑張ったね」「手伝うよ」「ごめんね」「すごいね」「ドンマイ」など、言われてうれしい言葉も沢山あります。このような言葉は、自分自身や周りの人にとって、明るく前向きになれる言葉です。

学校生活の中でも、お互いに美しい言葉を多く交わしながら活動（行動）していけたら、学校がますます楽しくなるのではないのでしょうか。お互いが尊重し合えるために、言葉を大切にしていきましょう。

授業・学級・学校行事・部活動などの様々な場面で、一人ひとり生き生きとした活動ができ、一人ひとりが大切にされる南中学校を目指していきましょう。